

平成 23 年 5 月 11 日

気仙沼市南町 様

気仙沼市南町および南町海岸の復興に向けての提案

東北工業大学工学部 都市マネジメント学科

教授 今西肇

5 月 5 日、南町を訪れ、村上力男様、齋藤宏様、小野寺幸雄様ならびに守屋様といろいろと懇談させていただきました。

その時にお話しいただいた皆様のお話しをもとに、南町の将来の地域発展計画も含めた復興の基本的な考え方を作成いたしました。南町および周辺の皆様でご議論いただければ幸いです。

気仙沼南町周辺の特徴

1. 地震前の資源

- (1) カツオ水揚げ日本一 (6 月から 10 月)
- (2) メカジキ水揚げ日本一 (冬場)
- (3) さんま (9 月から 11 月)
- (4) 見晴らしのいい温泉有り
- (5) 見学デッキのある魚市場
- (6) 日頃は波穏やかな良港
- (7) リアス式海岸

2. 地震前の課題

- (1) 仙台から 120 km とやや遠い
- (2) 交通の便が悪い。
- (3) 平地が狭い。
- (4) 南町海岸の景観が立体駐車場により失われている。
- (5) 若者用の観光資源少ない。
- (6) ファミリー向けの観光資源が少ない。

3. 地震後の課題

- (1) 津波によって陸に運ばれ打ち上げられた遠洋漁船が点在する。
- (2) 津波被災残壊物 (災害廃棄物、津波堆積物) が多い。
- (3) 津波によって地盤沈下が発生した。(60 cm から 70 cm)

- (4) 平常時でも高潮による冠水の危険がある。
- (5) 津波により全壊した家屋が多数みられる。鉄筋コンクリート造りのビルは残っており、構造上問題は少ない。

以上の、地域の特徴や課題を考慮して基本的な復興の考えを以下に示します。

4. 気仙沼南町周辺の復興に向けての基本的な考え

- (1) 今まで居住・営業していた場所で活動できるようにする。
- (2) 地元住民が自らのアイデアで地域復興地図をつくる。
- (3) 地盤が 60cm から 70cm 沈下しているので高潮対策が必要。
- (4) 津波対策は、3m までのものを考え、それ以上については人命を第一に考える。
- (5) 復興に当たりできる限り、地域から被災残壊物（災害廃棄物）や土砂を持ち込まない、持ち出さない。
- (6) 今後の観光資源の高度化（品質確保）を計るために緑と海の空間を拡充する。
- (7) 自然と一体型の共同駐車場（平場）を設ける。
- (8) 若者向けとファミリー向けの観光資源を創造する。
- (9) 仙台からの交通の便を確保する。

5. 気仙沼の復興に向けたアイデア

このアイデアは皆さんの議論の「たたき台」として利用してください。地域を知るみなさんだからこそ考えられることいっぱいあるでしょう。また、説明用に別図を用意しましたので、ご利用ください。

5.1 南町海岸に親水型公園の拡充

- (1) 南町海岸岸壁部の一部掘削により海を陸に引き込み、海岸公園を拡充し観光港としての風情を醸し出す。
- (2) 掘削した土砂は、分別された廃棄物と一緒に南町地区の地盤のかさ上げに用いる。
- (3) 岸壁から 50m から 100m 区間の緑地公園化
- (4) 遊歩道および空中遊歩道を整備し、ゆったりとしたウォーキングを楽しみ、見晴らしのいい場所でゆっくりと過ごす。
- (5) かさ上げするため、上下水道や電気・ガス・通信などを共同溝を作って収納し、耐震設計によりインフラの整備をする。

5.2 南町、魚町地区に気仙沼本来の食の観光資源の復活と拡充

- (1) 安くてボリュームたっぷりの海の幸（若者・ファミリー用）を提供できる屋台や長屋（間口が狭いもの）が数十軒並ぶ通りを作る。
- (2) 主な食材は、夏はカツオ、秋はさんま、冬はメカジキで充実させる。
- (3) 絶品のひと口高級海の幸（熟年用）が味わえる割烹、すし通りを作る。
- (4) ホテルの宿泊設備と地元飲食街のタイアップで、宿泊施設と飲食店の共存を計る。

5.3 魚町、南町地域に若者向けのモールの創設

- (1) 魚町と南町全体がモール化（遊歩道やショッピングモール）
- (2) 地域の若者向けアパレル関係の店と喫茶店などのモール街（屋根付き）

5.4 魚浜町、浜町地区に地震と津波の記憶を語り継ぐ公園や慰霊碑の建立

- (1) 津波跡や打ち上げられた大型漁船の観光資源としての保存（公園化）
- (2) 慰霊碑と津波伝承館の建設

5.5 交通の確保

- (1) 仙台港と気仙沼港を結ぶ航路開設と南町海岸公園の拡充
- (2) 1時間30分以内で仙台港と気仙沼港を結ぶ海の新幹船

以上、